

～枕崎市教育委員会だより～



発行 枕崎市教育委員会
枕崎市中央町184番地
TEL 0993-72-0170
FAX 0993-72-0677

巻頭言

天高く馬肥ゆる秋

枕崎市教育委員会 教育長 木之下 浩一

10月が終わろうとしている。空気が澄んで空の透明度が高くなり、季節は確実に秋に移ろつつある。

今月は、小学校の運動会や市民運動会が実施され、子供から高齢者まで幅広い年齢層の活気あふれる姿を見る機会が多かった。小学校の運動会では、校庭を元気に走り、一心不乱に演技に取り組む子供たちと、その姿を優しいまなざしで見守る保護者や来賓とが一体となった盛大な運動会に感動した。市民運動会は、5年ぶりの実施であったが、約3,890名の参加があり、大いに盛り上がった。昼前に雨が降り心配したが、選手の活躍と応援席の熱気で予定時間通りに終了することができた。とりわけ、高齢者の皆さんの元気でハツラツとした姿に元気づけられた。

いずれの運動会も昼食を挟み、午後までの実施であった。徐々にコロナ禍以前の行事の形に戻りつつあり、平凡な日常の有難みを感じた月だった。

また、10月は、先生方が研修に勤しんだ月でもあった。枕崎小学校・枕崎中学校では、「小中連携教育」の研究公開が行われた。市内外から多くの先生方の出席をいただき、「児童生徒の自己肯定感を向上させる取組～家庭・地域との交流と授業における共通実践～」をテーマに研究発表や研究授業が行われた。両校では、小中合同研修会や情報交換会など、小中学校の教職員が関わる場を設定し、ベクトルを揃え、小学校と中学校の垣根を低くすることに努めるとともに、校区における児童生徒の課題を「自己肯定感の低さ」ととらえ、その解決に向けて学校だけではなく、地域や生徒との関わりを充実させながら、①発達の段階に応じた実践、②小・中学校間における共通した実践、③児童生徒による主体的な実践について、2年間研究を深めてきた。

この2年間で、児童生徒の自己肯定感に向上が見られ、学校内外の異年齢交流をとおして、励ましあい、お互いの良さを認め合う姿が多く見られる等の変容が見えてきたとのことであった。

私は、この研究公開から「義務教育9年間で児童生徒を育てる」という意識を小・中学校の先生方が共有し、それぞれの課題に対して取り組むことで、次代を担う個性豊かでたくましい児童生徒の育成や確かな学力の定着、そして社会の変化に主体的に対応し、自立できる人材の育成を目指していきたいという強い決意を感じた。枕崎市では、一小・一中という校区構成の良さを生かし、枕崎の良き伝統と教育風土を活用して「故郷を学び、故郷に学び、故郷に返す」教育を推進している。研究公開は終わったが、出席者から頂いた意見や助言を日々の実践に取り入れ、本市の特色である一小・一中の連携教育の充実に努めてほしい。

11月に入ると、一気に秋らしくなる。1年の中で最も活動しやすいこの季節は、「天高く馬肥ゆる秋」とも言われる。秋の好時節を楽しみながら、プライベートや仕事を充実させたい。

11月の行事予定	
日	曜 行 事
1	金 地域が育む「かごしまの教育」県民週間(～7日) 文化財保護強調週間(県下全域～7日)
2	土
3	日 文化の日
4	月 振替休日
5	火 定例教育委員会・図書館休館日 パワーアップ研修(養護教諭・栄養教諭)
6	水 県政出前セミナー 県中学校駅伝大会(指宿市～7日) 市進路指導主任等研修会
7	木 学校保健・安全・歯科保健講習会(オンライン) 九州ブロック社会教育研究大会鹿児島大会(～8日)
8	金 第4回南薩地区栄養教諭等研修会 児童虐待対応講座(オンライン) 二十歳のつどい実行委員会②
9	土 土曜授業
10	日 南薩地区学校給食展(市民会館ホワイエ) 市総合文化祭市民芸能祭(市民会館) 図書館休館日・残食調査(～15日)
11	月 高齢者学級・老人クラブ合同学習会
12	火 枕崎校区地域学校協働活動推進委員会② 南薩地区フレッシュ研修「道徳」(南九州市)
13	水 地区館連絡会⑧ 市民会館・地区館避難通報訓練 県図書館大会(県民交流センター)・「運動大好き“かごしまっ子”」育成事業研究公開(南指宿中学校)
14	木 市学校保健研究協議会(サマ・フレッシュ枕崎) 別府校区地域学校協働活動推進委員会② 南薩地区文化財巡回視察(枕崎市市民会館)
15	金 市民あいさつ運動 県小・中学校長研究大会(川南ホール他)
16	土 青少年育成の日 枕崎市子ども大会(桜山小)
17	日 家庭の日・市民会館休館日
18	月 図書館休館日 市町村による青少年劇場(小5・6年参加) 市学校音楽祭運営委員会②
19	火 市学校音楽祭(枕崎市市民会館) 桜山校区地域学校協働活動推進に委員会 市子連理事會③
20	水 学校備品廃棄 県公立小・中学校教頭会研究大会(ウェルビュー)
21	木 立神校区地域学校協働活動推進協議会② 県PTA大会実行委員会⑤
22	金 市校長研修会⑥ 第2回南薩地区小・中・義務教育学校事務職員研修会(枕崎市市民会館) 南薩地区養護教諭研修会(南九州市・ひまわり館)
23	土 勤労感謝の日 ふれあい図書館まつり(サン・フレッシュ枕崎) 図書館休館日
24	日 郷土芸能祭
25	月 図書館休館日
26	火 市生活指導連携協議会②・校外生活指導連絡会② ②・交通事故防止対策連絡会②
27	水 学校備品廃棄(予備日)・館内整理日(図書館) 県公民館関係者研修会(県民交流センター) 二十歳のつどい実行委員会③
28	木 定例教育委員会
29	金 県租税教育研究会(サンエール)
30	土 「ART ORIGINATION2024」～12/24(南浜館) 家庭教育支援キャラバン「親子すくすくフェスタ」(指宿市)

読書について

「朝読み夕読み」、「緑陰読書」、「家読」、「宝本」などの言葉を知っている、実際に取り組んだことがあるという人は多いと思います。これらは、小学校五年生の国語の教科書に掲載されている「大造じいさんとガン」で有名な椋鳩十先生が始めた読書活動です。発祥の地は鹿児島県。多くの読書活動は鹿児島県から始まっています。令和5・6年度、「枕崎市読み聞かせボランティアグループ連絡会」が全国・県の表彰を受けました。枕崎市の多くの読書グループの功績が認められての受賞です。読書グループも椋先生が大事にしていた取組の一つです。本を読んでもらう時間は子供にとって至福のひとつです。でもそれは、読んであげる大人も同じこと。読み聞かせをとおして、皆さんの心に読書の灯が灯り、この先の人生を明るく照らしてくれることを祈っています。秋の夜長、すてきな本と出会えますように。

SOS の出し方教育・受け止め研修

市健康課と共催で高橋聡美氏を講師に迎え、10月7日(月)から9日(水)にわたり子供・保護者・教職員向けに実施しました。子供たちに対して、怒りを感じたら、深呼吸をし6秒間時間をおき落ち着いたあとに考えを述べるアンガーマネジメント、相手を傷つける言葉を直接的に言わず、言葉を言い換えて伝えるアサーティブな言葉がけなどについて話があり、他者を思いやる気持ちの大切さを伝えられました。また、保護者や教職員には、「受容と傾聴」をキーワードに、現代社会と私たち大人が育ってきた環境が異なることから、時代に合わせた子育てや家庭が重要であり、子供たちが生きづらさを感じない環境が大切であることを伝えられました。



研修会の様子

小学校運動会視察

13日(日)に市内4校の小学校で、運動会が実施されました。さわやかな秋晴れの下、児童がかけっこやリレー、表現運動などに一生懸命に取り組む姿や、保護者や地域の方々が児童に温かい声援を送る姿が見られました。また、PTA種目では、保護者が競技する姿に児童が喜び、会場が大いに盛り上がっていました。今年度は、5年ぶりに中学校を含め全ての小中学校において1日開催となりました。全ての学校で、特色あるすばらしい運動会・体育大会が実施されました。



運動会の様子

令和6年度枕崎市民大学講座について

令和6年度は、計8回の講座を開講します。

第1回 11/29(金) ウイスキー工場(薩摩酒造)の見学
第2回 11/30(土) 第3回親子野球教室
第3回 12/9(月) 枕崎の史跡と文化財①【夜講座】
第4回 12/16(月) 自然創作活動(自然花)
第5回 12/20(金) 鹿籠の領主「喜入氏」【夜講座】
第6回 1/8(水) 枕崎の史跡と文化財(見学)②
第7回 1/15(水) シニア向けスマートフォン教室
第8回 1/20(月) 未来に残そう枕崎の方言

【連絡先】教育委員会生涯学習課生涯学習係
TEL 0993-76-1286(生涯学習係直通)
E-MAIL shogaku@city.makurazaki.lg.jp

「小中連携」研究公開(枕崎小・枕崎中)

10月23日(水)に枕崎小・中学校で「小中連携教育」の研究公開を行いました。「一小・一中」のよさを生かし、連携して校区における児童生徒の課題解決に向けて2か年で研究を進めていくものです。枕崎小・中学校では「児童生徒の自己肯定感の向上」をテーマに研究を進め、研究発表ではこれまでの取組やその成果や課題を発表し、研究授業では、自己肯定感を向上させる手立てを多く取り入れた授業を行っていました。市内外から50人近くの参加者があり、充実した研究公開となりました。



授業の様子



授業研究の様子

多様な子供たちを尊重する教育～特別支援教育～

～「ほめる」と「しかる」～
私たちは、子供と接するとき「ほめる」と「しかる」を使い分けます。自然と出る行動ですが、その行動について少し考えてみましょう。「しかる」は、「子供の望ましくない行動を減らすためのする行動」です。何度も同じことを叱る状況が続くのは、「子供の望ましくない行動が減っていない」、つまり、「しかる」行動が効果的に働いていないことを意味します。できれば、「ほめる」行動を増やし、望ましくない行動の代わりに、望ましい行動を増やすような関わりが子供にとっても、親や教師にとっても必要なかもしれませんね。